

Contents

Japan-YWP 10周年イベント特集号！

- P.1 Japan-YWP 10周年イベントについて
- P.2-6 Japan-YWP10周年企画「水の未来をつなぐ～これまで・これからを感じよう～」
- P.7 Japan-YWP代表よりメッセージ
👤 国立保健医療科学院 浅田 安廣
- P.8-10 Japan-YWP「水×SDGs」オープン・ワークショップ
～SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化～
- P.11 Japan-YWP入会方法とお問い合わせ

Japan-YWP 10周年イベントについて

2020年1月25日にJapan-YWPの設立10周年を記念して、西原育英文化事業団の助成のもとでイベントを開催いたしました。本イベントでは「これまで」のJapan-YWPの活動を振り返り、「これから」のJapan-YWPについて考えるための基調講演と2つのパネルディスカッションを行いました。当日は産官学を問わず、様々な年代の方にご参加いただき、多くの意見を交わすことができました。また、10周年イベントと併せて「水×SDGs」オープンワークショップを同じ会場で開催し、「SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化」をテーマに参加者で議論を行いました。今号のニューズレターでは、10周年イベントと「水×SDGs」オープンワークショップの様子をご紹介します。



写真 Japan-YWP 10周年企画
「水の未来をつなぐ～これまで・これからを感じよう～」にて

開催の目的

Japan-YWPは、2010年の設立以来、各協会や組織と連携を取りながら、上下水道、水環境に関連する分野の学術的研究、知識の普及、水環境保全への積極的な貢献を目的に、若手中心の組織として活動を続けてきました。現在の体制が5期（2年で1期）目となり、Japan-YWPは10年目を迎えることとなりましたので、総会に併せ10周年記念イベントを開催いたしました。

10周年記念イベントは「水の未来をつなぐ～これから・これまでを感じよう～」をメインテーマに、設立より10年間の活動を振り返るとともに、これから先のJapan-YWPについて考えることを目的に企画いたしました。（右図：イベントポスター）

当日は現会員やOB・OGを中心に100名を超える方にご参加いただき、10周年の記念に相応しい盛大なイベントとなりました。

イベント概要

当イベントは栗田次期Japan-YWP代表とスペシャルゲストのミス日本2019年度水の天使・西尾さんが総合司会を務めました。冒頭のオープニングスピーチでは、今年度水大賞を受賞されました山陽女子中学校・高等学校地歴部の皆さんに活動を紹介いただきました。キーノートスピーチにはJapan-YWPの創設の発起人でもある、東京大学古米教授にご講演いただきました。その後のメインイベントでは、まずJapan-YWPクイズ大会を開催し、楽しみながらJapan-YWPへの理解を深めてもらいました。そしてパネルディスカッションでは、第1部は第4期以前のJapan-YWP代表・副代表にパネラーとして登壇いただき“これまで”の活動を中心に、つづく第2部ではパネラーを現Japan-YWP運営委員及び水の天使・西尾さんの6名に交替し、“これから”についてパネルディスカッションを行いました。また、本イベントでは会場の参加者と多くの意見を共有するために、「Mentimeter」というミーティングアプリケーションを活用しました。登壇者がスピーチを行っている最中、参加者は手元のスマートフォン等のデバイスから質問やコメントを投稿して会場のモニターと共有することができます。こうしたテクノロジーを駆使することで若手らしいイベントを企画しました。



写真：Mentimeterでのクイズの様子



写真：隣同士でディスカッションをする参加者

ゲストスピーチ 山陽女子中学校・高等学校地歴部

瀬戸内海で発生している海洋ごみ問題について、現状の調査と課題の整理を行い、解決に向けて取り組まれている活動について発表頂きました。海洋ごみ問題は、問題と認識していてもその実態を明らかにするには大変な労力がかかります。山陽女子中学校・高等学校地歴部の皆さんは実際に漁業関係者や住民と共に海底ごみを回収・調査して漂流ごみの分布、発生源を考察するだけでなく、その実態や原因を出張講座や展示会、メディアを通して広く周知・啓蒙されており、日本国内はもちろん世界に向けて活動されていました。大人顔負けの取り組みをされており、大変驚きました。

(右写真：山陽女子中学校・高等学校地歴部の皆さん)

分かりやすいスライド、ハキハキとした発表だけでなく、フロアからの質問にも発表者それぞれが自分の考えを述べていたことが印象的でした。また、現在部活動として海洋ごみ問題に取り組まれています。将来は様々な分野で活躍されるだろうとも感じました。SDGsでも水に関する目標が設定されていますが、その達成のためには水業界だけでなく法制度、教育などの様々な分野との連携が必要になります。山陽女子中学校・高等学校地歴部の皆さんのように水分野に興味関心を持って頂いた方が、幅広い分野で活躍されることを期待しています。



ゲストスピーチ 東京大学 古米 弘明 教授 「Japan-YWP活動への期待」

ご講演では、まず国際水協会（IWA）について概略をご紹介いただいた後に、IWAが考えている展望・未来像と使命（Vision&Mission）、共有する価値（Shared Values）、戦略的意思（Strategic Intent）についてご説明いただきました。次に、IWA-YWPの組織構成についてお示しいたいただき、Japan-YWPの位置づけを会場全体で確認した上で、Japan-YWPの設立の経緯について2009年当時を振り返りつつお話しいただきました。古米教授が実行委員長を務められたIWA World Water Congress & Exhibition 2018の成果についても言及され、Japan-YWPが取り組んだワークショップを「若手が将来につながる活躍をしたこと」として取り上げていただきました。

今後のJapan-YWPの展望の中で、国際的に活躍できる若手人材の育成について頂戴したコメントとして印象的だったのは、ただ水分野のリーダーを目指すのではなく、異業種・異分野を交えての場でもリーダーシップを発揮できるような「リーダー・オブ・ザ・リーダーズ」になれるように頑張ってもらいたい、とエールをいただいたことでした。

質疑応答では、当日司会を務めていただいた水の天使・西尾さんから積極的にご質問いただきました。「良い発表・良い質問をするにはどうしたら良いか？」という問いに対し、「情報は出し方、受け方、使い方・活かし方次第であり、TPOで内容を考えている。」と丁寧にご回答いただくなど、活発な議論がなされました。



写真：エールを送る古米教授

「水の未来をつなぐ ～これまで・これからを感じよう～」

クイズで振り返るJapan-YWP

今回のイベントでは100名以上の方にご参加いただきましたが、中にはJapan-YWPのイベントに初めて参加されるという方もいらっしゃいました。参加者のJapan-YWPとの関わり方も様々である一方、Japan-YWPの“これまで”、“これから”に関してより活発にディスカッションを行うために、Japan-YWPクイズ大会を行いました。クイズはすべてJapan-YWPに関わる選択問題で、参加者は制限時間内に「Mentimeter」で回答を行い、楽しみながらJapan-YWPへの理解を深めてもらいました。結果の集計は正解者に回答スピードに応じたポイントが加算され、リアルタイムで順位が決まるので、臨場感のあるアクティビティとなりました。

問題はJapan-YWPに関する基本的なものから、活動に携わる運営委員でも答えに苦しむものまで、全部で5問が出題されました。その結果、第4期に運営委員を務めた松原さん（日水コン）が1位に、続く2位には現在アドバイザーを務めていただいている国土交通省の本田下水道調整官が輝きました。優秀な成績を修めた参加者には水もしくはJapan-YWPにちなんだ素敵な賞品を授与させていただきました。（右上写真：1位の賞品を受け取る松原さん）



第一部 ～これまでを感じる～

参加型パネルディスカッションの第1部では、“これまでの共有”をサブテーマに第1期副代表の佐藤先生（北海道大学）、第3期代表の岸田さん（埼玉県環境検査研究協会）、第4期共同代表の山村先生（中央大学）、小野寺さん（国立環境研究所）の4名にパネラーとして登壇いただきました。

パネルディスカッションを始める前に、これまでのJapan-YWPを振り返ることを目的に1期から第4期までを山村先生に、現在の第5期については浅田代表に活動紹介をしていただきました（右写真：これまでのJapan-YWPを振り返る山村先生）。設立時の苦労話や各代の特色、開催したイベントを中心に話していただきました。現在の第5期では年間20回近いイベントを開催し、設立当初からのJapan-YWPの成長を感じるとともに、これまで多くの方に関わっていただき、その一つ一つが現在のJapan-YWPにつながっていると感ずることができました。

そして、パネルディスカッションではファシリテーターの浅田代表のもと、過去の代表・副代表に対して、運営を取りまとめた立場からJapan-YWPをどのように考えているのか、また最近の水業界で興味のあることなどについて議論いただきました。



いずれのテーマに対しても、前向きで独創的なコメントが多くありました。特に、Japan-YWPで「できること」「できないこと」がテーマとなった際には、多くのパネラーの方が「できないことはない」とコメントする中、第4期共同代表の小野寺さんが「唯一できないとすれば、卒業ですね」とおっしゃっていたことが印象的でした。また、会場からも「チャレンジできる。Japan-YWPでは失敗してもよい。」「情熱さえあればなんでもできる」などといった若手らしい前向きな意見投稿が目立ちました。（写真：会場からのコメントに答える過去代表ら）

「水の未来をつなぐ

～これまで・これからを感じよう～

第2部 ～これからを感じる～

第2部では、サブテーマの“これからを考える”に合せ、電力中央研究所の栗田次期代表、埼玉県企業局の籠田副代表、神奈川県内広域水道企業団の鈴木委員（広報）、NJSの長尾委員（企画）の現役Japan-YWP運営委員と水の天使・西尾さんの5名にパネラーをバトンタッチし、パネルディスカッションを行いました。「YWP×個人：あなたがやってみたいこと・YWPに期待することは？」というトークテーマでは、現役委員からの「運営メンバーとして活動することで自分自身の成長に繋げることができた。これからYWPに関わる人にもこうした経験をたくさん積んでほしい」といったこれからの世代に向けたコメントがありました。また、水の天使・西尾さんからは「1年間水の天使として活動させていただいたことで“水”についてたくさん学ぶことができた。今後はアナウンサーとして“水”について発信できたらと思う」という水業界人としては非常にうれしいコメントもありました。



写真：第2部パネラーの皆さん

そんな中、鈴木委員は「今後水業界を担う若手が集まり、最悪の災害時のプランスタディを行いたい」とYWPでの野望を語り、これには浅田代表も驚いていました。また、会場からも「住民参加型イベントの開催」や「YouTubeでの配信」などの具体的な提案や、更には「月での上下水道事業」といった夢のあるアイデアの投稿がありました。ここでのコメント数は100投稿に達し、栗田次期代表は「今後の活動のヒントにしていきたい」と前向きに受け止めていました。



写真：コメントする栗田次期代表

イベントの終わりには、浅田代表から「あなたにとって水とは？」という質問が会場に投げかけられました。

これに対して、参加者より“水”に対するキーワードが次々と投稿され、最終的にワードクラウドが作りあがりました。様々なキーワードが並ぶ中、「仕事」「人生」「生命」「愛」といった言葉が多く投稿され、改めて私たちにとって水は近く、かけがえのないものであると認識しました。

（写真：ワードクラウドにコメントする浅田代表）



10周年イベントを終えて【コラム】

今回の10周年イベントは100名を超える参加者のもと、節目の年を記念するイベントに相応しいものとなったと感じています。イベントでは、古米教授や各代表より創設時やこれまでの話を聞くことができ、様々な出来事や多くの方の関わりがあり、今のJapan-YWPがあるのだと実感することができました。また、山陽女子中学校・高等学校地歴部の皆さんの素晴らしいオープニングスピーチを聴いて、これからを担う世代にこうした学生が多くいることを心強く思うと同時に、Japan-YWPのバトンも確実に次の世代・その次の世代へつないでいかななくてはならないと感じました。



写真：イベントを企画、運営した第5期運営委員



おまけ写真：イベント後の懇親会も盛況でした

代表よりメッセージ

Japan-YWP第5期代表

国立保健医療科学院 浅田 安廣



10周年イベントで登壇した浅田代表



Japan-YWP第5期の活動を振り返る浅田代表

“持続”と“変化”そして“挑戦”

2018年から始まった第5期ですが、とうとう終わりを迎えることになりました。短い期間ではありましたが、振り返ってみると多くの変化をもたらした代であったと強く感じます。誰もが主役となりうる代、その考えを頭に常にいれつつ、第5期を引っ張っていきました。しかし、それを確実にできるようにするためには多くの方々との繋がりや理解が重要なポイントとなりました。その大きな転換点が、IWA世界会議です。この一つのイベントが、私たちを奮起させ、バラバラであった力も組み合わせれば大きな力となり、何でも成すことができる、そのような熱い想いを芽生えさせたといえるでしょう。そして、この成功がJapan-YWPの存在を大きくするキッカケとなったと私は考えます。

そして、第5期後半は10周年の節目に向けた活動となります。果たして、歴代先輩たちから繋いできたこのJapan-YWPに対して私達は何をすることができたのでしょうか。そしてこれからに向けて何を残していけるだろうか。これを常に自問自答しながら活動していった後半でした。今までのJapan-YWPの活動を世間に示すこと、それが日本水大賞厚生労働大臣賞の受賞です。今までで最も緊張した式典でしたが、この式典に受賞者として参加できたことは大変うれしく思いました。そして、今まで繋げてきたJapan-YWPの重みも改めて強く感じた瞬間でありました。

では、次に向けて残すべきことは何か。それを考えるきっかけが10周年記念イベントとなります。10周年記念イベントは私自身の中では大成功と言えます。基調講演、パネルディスカッション、ワークショップ、どれもとても楽しむことができました。特に私自身においては歴代代表を交えたパネルディスカッションで、歴代の先輩方の想いを初めて聞くことができ、正直、衝撃を覚えた瞬間でした。しかしながら、言葉で聞かずともその想いはきちんと繋がっているんだと強く感じました。そして、次の世代へ向けてです。やはり大きな部分としては“挑戦”というキーワードがいいでしょう。そして、組織としては“持続”と“変化”を意識して“挑戦”という場を作り上げる。そういった中で新しいもの、若手ならではのものが生み出されると思います。大変難しいことかと思いますが、次の10年間を繋いでいくことによって、さらに新しいJapan-YWPを見ることができると私は強く信じております。

最後になりますが、今までJapan-YWPを支えてくださりました多くの方々に感謝申し上げます。おかげ様で立派な組織となることができました。更なる発展に向けて引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。そして、運営委員の皆様、私を代表にしてください、ありがとうございました。皆さん一人ひとりが支えてくれたからこそ、第5期を無事に終えることができました。皆さんはかけがえのない仲間です。これからもよろしくお願ひいたします。

では皆様、また会える日を楽しみにしております。

「水×SDGs」オープン・ワークショップ ～SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化～

「水×SDGs」ワーキンググループの活動

国連で採択された世界の目標、エス・ディー・ジーズは、日本にとって、私たちにとって、そして水業界にとって、どういった意味を持つのだろうか？こうした疑問からJapan-YWPのプラットフォーム上で「水×SDGs」の活動をはじめ、最初のワークショップを開催したのが2018年5月26日でした。その後、このイニシアティブから「何か使えるものを生み出そう」という意気込みでワーキンググループを立ち上げ、キックオフ・ワークショップを行ってから（2019年3月23日）早くも1年が経ちました。

私たちが何を指して活動してきたのか、活動紹介をニュースレター第18号に掲載していますので、ぜひそちらもお読みください。今回は、1年弱の活動で行ってきた内容をまとめ、それを追体験していただく目的で行ったオープンワークショップの概要をご報告します。

午後にはJapan-YWPの10周年記念イベントもあり、40名近くの水のプロフェッショナルや異業種の方々にご参加いただきました。



広報バナー

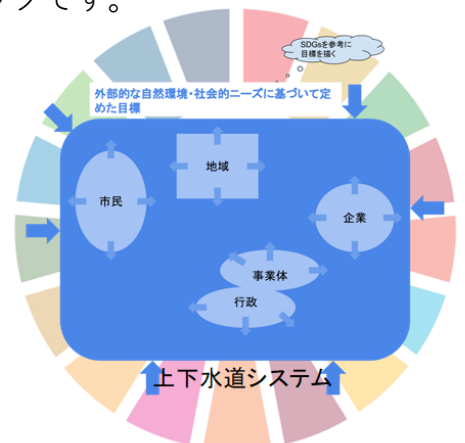


オープン・ワークショップの趣旨 写真：ワークショップ開始時の参加者の様子

今回のワークショップには「SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化」というタイトルがありますが、ここには、これまでワーキンググループが行ってきた作業過程の振り返りが反映されています。ワーキンググループとして以下の目的がありました。①SDGsを他の国に対する開発援助ではなく、日本の文脈に落とし込む。②SDGsの多面的な視点から、水、特に上下水道セクターを見直す。③水に関わる私たちが行動につなげていく道しるべとする、共通の目標を提案する。このような目的のもとで、SDGsを考えてきました。この過程を追体験できるように設計したものが、今回のワークショップです。

具体的にワークショップでは、「SDGsにかかっているターゲットをヒントにして、日本の上下水道の未来像を描いてみる」ことを目指しました。水セクターには、事業者や企業、市民や研究者など、様々な人たちが関わっています。それぞれの立場からビジョンを立てる（インサイド・アウト・アプローチ）のではなく、世界全体で合意された共通の行動計画であるSDGsをたたき台に、共通のビジョンを導出してみよう（アウトサイド・イン・アプローチ）という発想に立っています。

アウトサイド・インの発想



「水×SDGs」オープン・ワークショップ ～SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化～

開会～アイスブレイク

当日MCの高田さんの開会宣言、そしてJapan-YWPの浅田代表の挨拶で幕を挙げたかに見えたワークショップ、実はその前から始まっていました。会場に配置された6つのテーブルでは、ファシリテーターが先にアイスブレイクを開始していたのです。アイスブレイクのルール：①あらかじめ「自己紹介シート」に書いたことを参考に、テーブル内のメンバーの共通点を見つける、②見つけた共通点をもとにチーム名を考える、③制限時間は3分！！

みなさん、瞬時に積極的な自己紹介をしてくださり、数々の共通点が出てきました。結果、チーム「清水」「NEWS エンジニア」「水にこだわる麺好き」「亀楽」「前のめり」「GIFU」が誕生しました。いちばん面白いチーム名として表彰されたのは「GIFU」でした。肩書を取り外してお互いを知るために、今後のイベントでも使えるアイスブレイクであったのではないかと思います。

①氏名 (ニックネーム可)	
②私を漢字で表すと	③私と水の関わり
④好きなもの・こと	チーム名

「自己紹介シート」

アクティビティ：『水×SDGsジグソー』

今回行ったワークショップのアクティビティ、「水×SDGsジグソー」には、パズルのピースのように、いろいろな人とつながりながら一つの絵姿を描いていく、という意味合いが込められています。今回は、「水業界が目指すべき目標」を提案することを目指しました。

いきなりさらの状態からビジョンを考えるのではなく、国連で定められているSDGsのターゲットを使い、参考にしようというわけです。この作業をやりやすくするために、ワーキンググループであらかじめ日本の水セクターに落とし込みやすくSDGsに加工を加えました。169のSDGsターゲットから日本の水業界に関係するもののみを抽出し、関連するもの同士で十数ずつ、6つのグループに分け、読みやすいように色付けしたり、並べる順番を整えたりしたのです。このグループ分けしたSDGsターゲットの一覧を、1つのチームに1つのターゲットグループが行き渡るよう、それぞれ6つのチームに配りました。

「水×SDGsジグソー」では三つのステップを踏むことで、「水業界が目指すべき目標」を作っていました。

① 参加者がSDGsターゲットの一覧を見ながら、重要だと思うキーワードやアイデアを抽出し、チームのメンバーと共有します。その上で、ターゲットグループの特徴や水業界の課題との関係性などを自由に話し合いました。

② ①の各チームから一人ずつ集めたチームを6つ作り、それぞれテーブルへ別れて議論しました（「ジグソー」テーブル）。「ジグソー」テーブルでは、参加者それぞれが①のチーム代表者としてSDGsターゲットの一覧を紹介し、お互いが①で議論した内容を相対化して考えるきっかけにします。時間が限られていたので、質問や意見はメモで渡しました。

③ 再度①のチームに参加者が戻り、②で他のターゲットグループの情報を共有したことで気づいた点や、ターゲット全体から見た自分たちのターゲットグループの立ち位置について改めて議論します。そして、自分たちのチームだからこそ発信できる「水業界が目指すべき目標」を提案しました。

「水×SDGs」オープン・ワークショップ ～SDGsの日本ごと化・自分ごと化・水ごと化～

ワークショップから得られたこと

どのチームからも、斬新な、同時に地に足の着いた「目標」が出てきました。ほんの一例ですが、『レジリエントの実現～一生によりそう上下水道～』という目標を掲げたチームは、インフラ老朽化や気候変動が進む中、「100年に一度は、一生に一度だ」という発想の転換によってレジリエンス捉えなおしており、発表を聞きながらハツとなるものがありました。こうした貴重なご意見は、ホームページのイベントページに掲載している成果報告からご覧いただけます。



写真：「目標」提案の様子

今回のワークショップが斬新な点は、同じセクターに関わる様々な立場の方々に共通の目標を作るうえで、SDGsを参考にする過程をアクティビティとして構造化した点です。実際に、様々な組織や場面でも使っていただける方法論なのではないか、と考えています。この方法論を形にする上でも、進行上のポイントとなるのは、「ジグソー」テーブルで行う意見交換の意義を参加者に十分理解してもらうことであると感じました。

おわりに

全体で2時間というとても短い間に多くの作業をこなさなければならず、若干物足りなさもありましたが、思いのほかたくさんの面白いアイデアを共有できました。

この日の午後は10周年記念イベントもあり、盛り上がりを繋げていけたのではないかと思います。ぜひ、Japan-YWPの今後の活動を通して、ネットワーキングを続けていきましょう！

最後になりましたが、ワークショップにご参加いただき貴重なコメントを出していただいた皆様、企画と運営にご協力いただいたJapan-YWP会員の方々（後藤正太郎さん、高田一輝さん、鈴木真実さん、長尾麻未さん、久富稔さん、吉田健人さん、矢口光良さん）、この活動を可能にくださったJapan-YWPの浅田安廣代表、広報やロジなどで支えてくださった運営委員の皆様に、この場を借りて心から御礼申し上げます。

（文責：平野美晴 立命館アジア太平洋大学 助教）



写真：グループごとのアイデアを集めた模造紙と参加者の皆さん

※各グループごとのアイデアは、Japan-YWPホームページのイベント開催記録からご覧いただけます！

URL：<http://www.japan-ywp.site/event/pg2222151.html#2020125-1>

Japan-YWP入会方法と問い合わせ先

Japan-YWPは、随時会員募集中！

会員要件は、大学・研究機関、官公庁、下水道・下水道事業体、民間企業などに所属する水関係の若手・学生（原則35歳以下）とし、専門内容やIWA会員であることの有無は問いません。また、年会費等は不要です。会員登録されますと各イベントの情報をメールで受け取ることができます。入会手続きはメールまたはWebサイトから行えます。

メールから

入会希望の方は

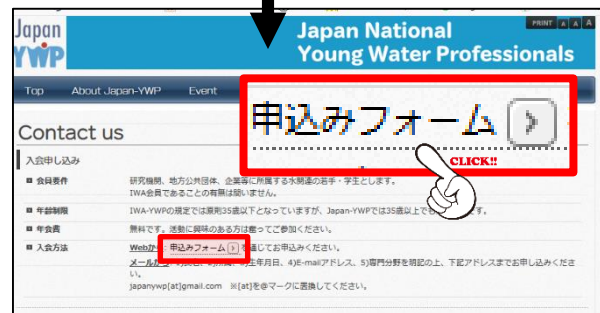
- ①所属
- ②氏名
- ③生年月日
- ④E-mailアドレス
- ⑤専門分野

を明記の上、以下のアドレスまで
お気軽に申し込み下さい。

japanypw@gmail.com

Webサイトから (右図参照→)

Japan-YWP Webサイトの入会フォームからも入会手続きが可能です。トップページの「Japan-YWPへの入会はこちら」より入会フォームへお進みください。



右のQRコードからJapan-YWP Webサイトへ
(<http://www.japan-ywp.site>)



Japan National Young Water Professionals Newsletter Vol. 19

発行：2020年3月16日

発行者：Japan National Young Water Professionals
(代表：浅田 安廣)

ホームページ：<http://www.japan-ywp.site>